

第2回 加越沿岸海岸保全基本計画検討委員会

会議概要

1. 日時：令和5年9月7日（木） 14：00～16：00
2. 場所：石川県庁11階 1109会議室（WEB会議併用）
3. 出席者：由比委員長、有田委員、中村委員、嶋崎委員（笹原委員代理）、
廣瀬委員（桑島委員代理）、舟川委員、加藤委員、畦内委員（森田委員代理）、
竹沢委員、桜井委員、綱谷委員（宮元委員代理）、木下委員（宮橋委員代理）、
北森委員（井出委員代理）、喜多委員（田村委員代理）、中川委員（村山委員代理）、
庭田委員（油野委員代理）、上杉委員（岸委員代理）、中佐委員（川口委員代理）、
杉谷委員（寶達委員代理）、浦委員（小泉委員代理）

4. 会議次第

(1) 開会

- ・ 事務局の司会進行により開会された。

(2) 挨拶

- ・ 石川県参事の桜井委員から挨拶が行われた。

(3) 議事

1) 議事公開の確認

- ・ 委員長より議事公開の確認が行われ、委員の了承を得た。

2) 第2回 加越沿岸海岸保全基本計画検討委員会 資料説明

- ・ 事務局より委員会資料に関する説明が行われた。

(質疑)

- ・ 各委員からの主な質疑・意見内容については、次頁以降に示す。

(議事概要及び資料公開の可否について)

- ・ 委員長から議事概要の公開について確認が行われ、委員の承認を得た。

(4) 閉会

- ・ 事務局の進行により閉会された。

第2回 加越沿岸海岸保全基本計画検討委員会（令和5年9月7日開催） 議事概要

1) 事務局より、「資料3：第2回 加越沿岸海岸保全基本計画検討委員会資料」の説明が行われた。

2) 各委員からの主な質疑・意見

①第1回検討委員会の内容

- ・ 特になし。

②加越沿岸における、防護・環境・利用の現状整理

- ・ 海水浴場が減少に至った理由を示していただきたい。（委員長）
→（事務局）要因としては、浜茶屋の経営者側の都合などといった理由が挙げられる。
- ・ 国の方針では令和7年度末を目標に海岸保全の基本計画の策定を目指しており、石川県では加越海岸をはじめ、進めている状況と認識しているが、福井県や富山県などの隣県の状況はどのようになっているのか（委員長）
→（事務局）富山県や福井県では、現在、委員会は立ち上がっておらず、見直しに向けた方針を検討している状況である。
- ・ 平成27年度の波浪による被害について、この年だけ有義波高が全体的に高い年だったのか、それとも他に波浪的な要因があったのか、前から蓄積されていた損傷がこの年に一気に表面化したのか、被災があった月日がバラバラなので、全体的に波が高かったなどといった情報があれば教えて欲しい。
→（事務局）平成27年3月頃に発生した5m以上の高波浪が40時間にわたって発生したことによる被害が大きく、平成27年に受けた被害のほとんどがこの高波浪によるものである。その影響により広域で海岸に被害を蓄積し、3月10日に発生した別の冬季波浪でも被災を受けた。

③気候変動を踏まえた将来外力の設定

- ・ P22の潮位偏差について、d4PDFの過去実験結果として1.02と記載されているが、この値は過去実験データに対してどのような処理を行って得られた値なのか。
→（事務局）金沢港での実測の結果から確率規模を算出した結果、約80年確率になっており、過去実験のデータを並べた際も、約80年確率に相当する値を抽出した。

- ・ 将来波高の算出方法について、基準となる波高に、d4PDF の過去実験と将来実験の上昇率を掛け合わせることで算定するものと認識しているが、過去実験は 2010 年までの気候を表していることを前提としているため、2010 年以降のデータを含めた波高に上昇率をかけることは、見方によってはダブルカウントしている可能性がある。一方、国が定める海岸保全施設の技術上の基準では過去の最大波高や推計される最大波高を考慮する規定もある。海岸管理者として、どのようなシナリオを想定し判断したかを説明できるようにした方がよいと思う。また、同様に 2012 年の爆弾低気圧をどのように扱うかを明らかにした上で、どの値を採用するかについて、説明が必要である。
→（事務局）次回の委員会までに精査の方をしていきたい。
- ・ P14 の津波の影響評価の項目が第2回と第3回で行う範囲のどちらにも該当しているが、第3回の委員会での検討内容と認識してよいか。（委員長）
→（事務局）第3回の検討内容である。
- ・ P21 の朔望平均満潮位のグラフについて、21 世紀末のプロットが 2100 年に示されているが、21 世紀末の定義として、2081～2100 年なので、期間の中心となる 2090 年にプロットすべきではないか（委員長）
→（事務局）次回の委員会までに精査の方をしていきたい。

④現計画と将来外力の算定結果の比較

- ・ 特になし

⑤気候変動が海岸に及ぼす影響

- ・ 特になし

⑥まとめ

- ・ 次回は、防護・環境・利用状況に応じて影響を評価していくと思うが、この加越沿岸はやはり砂浜が比較的多い沿岸であると思う。普段の波の高さや向きがどのように変化するのか、海面上昇することによる普段の波の変化を整理していただきたい。予測の結果には幅があると思われるが、この幅の中で、皆さんが大事にされている砂浜を 22 世紀まで残していけるような方向性を次回議論できるようにして頂ければと思う。
→（事務局）潮位や波などのデータをみると、外力の条件が変わりつつあると思われ、こういった影響もしっかり検証し、防護・環境・利用という面で、今後どういう海岸であるべきかといったところも考えていきたい。

- ・ レッドデータブックによる調査結果は、専門家が少ないことや生きもの調査特有の問題（調査技術が未発達であること等）が要因で、どこにどれだけの生物がいるのか、把握が不完全であるのが現状である。レッドデータブックの高精度化のために、市町や漁港といった自治体・地域レベルからも情報提供を頂ければと思う。特にレッドデータブックが主に扱われているのは陸上生物である。水中にいる生物はなかなか調査できないため、漁港関係者などには、魚種や漁獲量についてデータを提供して頂き、今後そういった面の情報もこの委員会に反映して頂ければと思う。
→（事務局）各市町や漁業関係の機関に対しても、環境、特に生物の情報があれば提供して頂くようにしていきたい。

⑦今後のスケジュール

- ・ 特になし

以 上